

第2回人権教育パワーアップ講座

(講座の趣旨・目的)

「誰もが安心できる学級・学校づくり」をテーマに、講師の実践やアクティビティから具体的な実践方法を学ぶ。さらに、講師を中心に、受講者と共に「安心の場づくり」について考え、「誰もが安心できる学級・学校づくりを実践する力」を身に付ける。

- | | |
|----------|--|
| 1 日時及び会場 | 令和2年9月8日(火) 13:45~16:30 奈良県産業会館 |
| 2 参加者 | 人権教育パワーアップ講座第3期受講者6名
人権教育パワーアップ講座第4期受講者1名 <<合計7名>> |
| 3 日程及び内容 | 13:45 開講式
13:50 説明「人権教育の推進について」
14:05 講義「一人ひとりのもちあじを尊重した集団づくり」 |

<内容(概要)>

(1) 説明「人権教育の推進について」

奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課 人権教育係長

- ・人権教育は、全ての教育活動において実践することが求められる。各教科のねらいを達成しながら、どの教科においても人権の視点を基盤に展開していくことが大切である。
- ・人権教育と結びつきにくい教科でもあえて人権の視点でその教科を見直すことで、新たな気づきがあるかもしれない。
- ・新型コロナウイルスに関する差別事象が県内でも起こっている。新しい課題ともいえるが、これまで人権教育で大事にしてきた考え方はどの課題でも同じである。
- ・個別の課題を学ぶことだけを目的にせず、学んだ後に「どうしていきたいか」ということをはっきりさせて取組を展開していただきたい。

(2) 講義「一人ひとりのもちあじを尊重した集団づくり」

大阪多様性教育ネットワーク 共同代表 沖本 和子 さん

- ・受講者が安心して参加するために、まずは安心ルールの確認が大切である。安心ルールは、『うなずこう(傾聴)、ひみつは守る(信頼)、パスOK(尊重)』の3つである。
- ・自己開示をするときには、その人をつくる全ての要素を「もちあじ」ととらえる。「よいもちあじ・わるいもちあじ」といった優劣で考えないことが大切である。
- ・同じことを見たり聞いたりしても、受け取り方は人それぞれであることを共通認識する。そして、受け取り方の違いを伝え合うことで相互の違いが分かり、安心につながり、自尊心が高まる。
- ・人に何かを伝えるときには、「わたしメッセージ」で伝える。「わたしは~だと思う。」のように主語を「わたし」にして、自分の感じたこと、考えたことを自分の言葉として伝えることが大切である。

<参加者の感想から>

- ・「自分が子どもに向けて発している言葉は、自分が意図した通りに子ども達に届いているのだろうか？」とドキッとする内容が多くあった。
- ・「人は多様だ。」という前提を忘れ、「世間体」とか「自分(教師)的には」といった限られた枠の中で子ども達をとらえようとしている自分に気付かされた。